

独立行政法人　国立病院機構
四国がんセンター



中心静脈カテーテルポート造設術を受けられる方へ

さま

2017年1月5日　作成
2026年11月17日　改訂

私たち医療スタッフは

Ⅰ　入院や手術に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします

Ⅱ　手術後の苦痛を軽減し、合併症を起こさず、安心して退院を迎えられるようにお手伝いします

ダイアリー

このパンフレットには、 当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように患者さんご自身の目標と医療スタッフの目標をあげています

入院期間は約４日の予定です

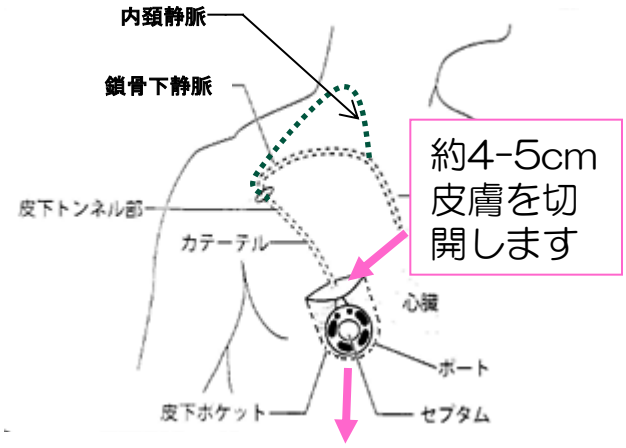
手術後の経過は、個人差があり、体の状態によっては予定どおりにすすまないこともありますが、その都度対応していきますのでご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます



中心静脈カテーテルポート留置

鎖骨下静脈法、内頸静脈法について



約4-5cm
皮膚を切
開します

ポートの種類



パワーポート
大きさ　25mm
採血可能タイプ



オルフィスCVキット
大きさ　25mm
採血不可タイプ

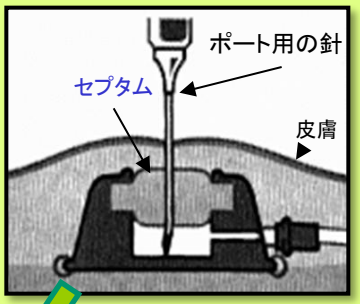
中心静脈から点滴を行う方法のひとつです。

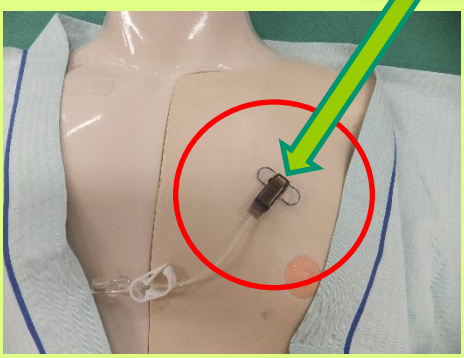
腕の血管が脆い、細くてなかなか入らない、何回も針を刺されるのがつらい・・・など点滴時の針の挿入に苦痛があったり、抗がん剤が皮下にもれるような危険が高い方にお勧めできます。

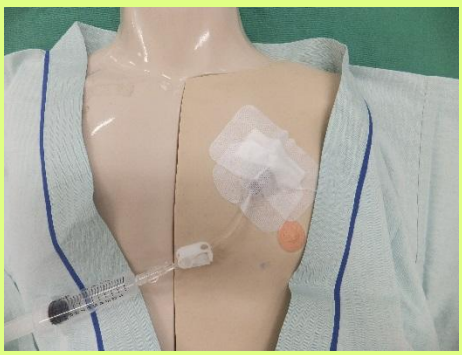
✓カテーテルポートの植え込みは皮下の局所麻酔にて行います。30-60分程度の手術です。

✓ポート留置後は日常生活に制限はほとんどありません。

点滴治療時の様子







①皮下にあるポートのセプタム部分へ皮膚の上から針を刺します。

②液の通り具合を確認したあと点滴を開始します。針を刺した周囲をテープで固定します。



ポート造設前日（入院日）　　月　　日

今日の目標
- 入院生活、ポート造設について医療スタッフの説明が理解できる

＜時間＞　＜予定＞

12：00　昼食

＜必要物品＞
- 特にありません

＜説明＞
- 医師よりポート造設について説明があります（入院前に外来で説明があった方は不要です）
- サインをした同意書は看護師にお渡しください
- 手術開始時間は医師や看護師がお伝えします
- わからないことやもう少し詳しく説明を聞きたいことなどがありましたら、遠慮なくお尋ねください

14：00　検温　血圧測定

＜お薬＞
- 血液をサラサラにするお薬など、医師から中止を指示された薬についてお知らせください
- 他の病院で処方された薬は、一度お預かりします　医師に確認後、続けるか、中止するかをお伝えします

＜食事＞
- 食物アレルギーのある方は、医療スタッフにお知らせください
- 基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります

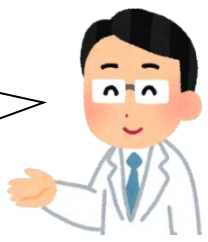
18：00　夕食

＜清潔＞
- シャワー浴をしましょう
- ポート造設予定部位に皮膚トラブル（発疹・傷など）がある場合は、必ずお知らせください

21：30　消灯

＜睡眠＞
- 眠れない場合は安定剤を服用することができますので看護師にご相談ください

医療スタッフの目標
- 手術の準備をすすめられるように支援します



ポート造設当日（手術前）　　月　　日



手術前の目標

・予定どおりに手術を受けることができる

＜時間＞　＜予定＞

6：00 ― 起床

7：30 ― 朝食

昼食は手術の開始時間によって前後することがあります

10：00 ― 検温、血圧測定

手術開始が午後の方はシャワー浴ができます

手術30分前 ― トイレを済ませてください

安全に手術を行うために以下のものは全て外してください

	□ 入れ歯		□ 腕時計
	□ 磁気製品・湿布		□ イヤリング・ピアス
	□ 指輪		□ ネックレス
	□ ブレスレット		□ ヘアピン
	□		□

※眼鏡をかけて手術室へ行く場合は、眼鏡ケースをご準備ください
　貴重品は、セーフティボックスに保管してください

検温、血圧測定

お渡しする手術衣に着替えます（下着やズボンは着替えません）

・鎖骨の下にポートを造設する場合は同じ側の腕に点滴をします

・上肢にポートを造設する場合は反対側の腕に点滴をします

手術5分前 ― 看護師と一緒に、２階のＸ線ＴＶ室（H受付）まで歩いて行きます

医療スタッフの目標

・予定どおりに手術が受けられるように支援します



ポート造設当日（手術後）　　月　　日



手術後の目標

・痛みを我慢せず、医療スタッフに伝えることができる

＜時間＞　＜予定＞

- 手術後 ― 看護師が迎えに行きます
  看護師と一緒に車いすでレントゲン撮影に行きます
- 帰室時 ― 検温、血圧測定
  問題なければ点滴を抜きます
- 18：00 ― 夕食
- 19：00 ― 検温、血圧測定
- 21：30 ― 消灯

ポートの種類や造設日などを示した
患者記録カードをお渡しします

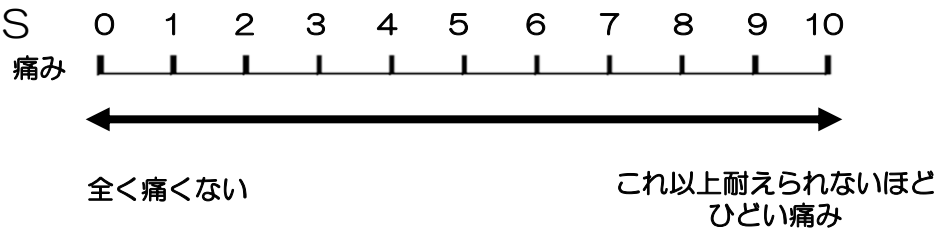
〈手術後の傷〉
- 傷口にはガーゼを貼っています
- 毎日ガーゼを交換し、傷口を観察します

〈手術後の症状〉
- 数日間は軽い痛み・違和感つっぱり感や内出血などの症状が出ることがあります
- 強い痛み、急な腫れ、息苦しさがある場合は看護師にお知らせください

痛みについて

痛みの程度を看護師が数字でお聞きします（ＮＲＳ）
数字での表現が難しいときは、フェイススケールでお答えください

1）ＮＲＳ



2）フェイススケール



0 痛みがない　1 少しだけ痛い　2 もう少し痛い　3 もっと痛い　4 かなり痛い　5 もっとも痛い

医療スタッフの目標
・手術後の合併症の早期発見に努めます



ポート造設後１日目～２日目　　月　　日～　　月　　日



今日の目標

- 痛みを我慢せず、医療スタッフに伝えることができる
- ３８.０℃以上の発熱がない
- 傷口の腫れや赤みがない
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる

＜時間＞	＜予定＞
６：００	起床
７：３０	朝食
１０：００	検温、血圧測定
１２：００	昼食
１８：００	夕食
２１：３０	消灯

〈処置〉
- 医師の回診があります
- 傷口を消毒し、ガーゼを交換します

〈清潔〉
- 体を拭く場合は看護師がお手伝いします
  医師の許可が出たらシャワー浴ができます

〈活動〉
- 無理な腕の挙上や重い物を持つ動作は控えましょう
  造設側の肩・腕は痛みのない範囲で日常動作を
  しても問題ありません

〈症状〉
- 強い痛み、急な腫れ、息苦しさがある場合は
  看護師にお知らせください



ポート造設後の日常生活について説明します

患者記録カードについて

こんなことが分かります
- どこの病院で留置したのか
- どんな種類のポートが留置されているのか
- いつ頃に留置したのか
- どの部位に留置したのか

当院以外の医療機関にかかるときは患者記録カードを提示しましょう
紛失しないように大事に取り扱ってください
健康保険証や運転免許証などと一緒に保管すると良いでしょう



医療スタッフの目標
- 手術後の合併症の早期発見に努めます
- 退院後の日常生活に不安がないように支援します

ポート造設後３日目（退院日）　　月　　日



今日の目標
- 痛みを我慢せず、医療スタッフに伝えることができる
- ３８.０℃以上の発熱がない
- 傷口の腫れや赤みがない
- 退院後の日常生活の注意点について理解できる

＜時間＞	＜予定＞
６：００	起床 検温、血圧測定
７：３０	朝食 医師の回診があります 傷口のガーゼを外します
１０：００	退院 退院前に忘れ物がないようにご確認ください 「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、 ２階医事受付窓口でお支払ください

医療スタッフの目標
- 退院後の日常生活に不安がないように支援します



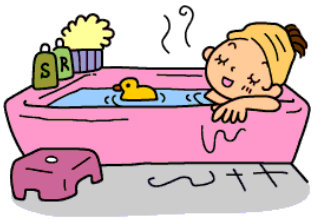
ポート造設後の日常生活について

■傷口について

1日1回はご自身またはご家族が、傷口を確認しましょう
腫れる、赤い、出血がある、熱をもっているなどの気になる症状があれば病院に連絡しましょう
手術から7日目以降に抜糸します（外来日によって前後します）
続けて入院される方は、入院中に抜糸することもあります
痛みは、通常数日から１種間程度で落ち着きます

■入浴

抜糸後は、浴槽につかることができます
傷口はボディーソープを手の平で泡立て、その泡で
優しく洗いましょう



■活動

家事や軽い運動など、日常生活に制限はありません
傷口が開いてしまう原因となりますので、抜糸するまでは以下のことは控えましょう

- 手術した側の腕を大きく回したり、重い荷物を持つ
- 手術した側の腕を上下、左右、前後に激しく動かす
- プールや温泉などの施設の利用
- 違和感を感じるほどの強い圧迫（きつい下着、バッグの紐など）

洗濯物を干したする際は、傷口が馴染むまでは少しひきつる様な感じがあります
無理のない範囲で行いましょう
シートベルトや肩掛けバッグなどが傷口に当たる場合は、ハンドタオルなどを挟むようにしましょう

■ポートの使用について

医師の許可が出ればポートを使うことができます
使用後は、ポートの穿刺部に絆創膏を貼ります
絆創膏は、２時間後にご自身で外してください
針を抜いてから２時間経過すれば、使用した日も入浴できます

■ポートをしばらく使用しない場合について

感染予防のため、ポート周辺の皮膚は清潔にしておきましょう
閉塞予防のため、４週間に１回は病院でポートに薬液を流す必要があります
お住まいが遠方の場合は、主治医に相談しましょう

■検査について

【ＭＲＩ】



ポートは、ＭＲＩ対応となっていますので検査に支障はありません
ポート用の針を刺した状態では検査できません
造影剤を投与する場合は腕から点滴します

【マンモグラフィー】

ポートが胸に入っている場合は、検査によるポート破損の危険性が否定できないため、検査担当者にその旨を伝えてください

【その他】



うつ伏せになる必要がある検査や処置で、ポートを使用できない場合があります
腕にポートが入っている場合、ポートが入っている側の腕では、血圧測定はできません

MEMO　気になることや症状などを書き留めておきましょう



- 傷口から出血が止まらないとき
- 息苦しさや胸の痛みがあるとき
- 退院時と比べて、
  ポート造設部位の腫れや赤み、痛みが強くなったとき
- ３８.０℃以上の熱が出たとき

上記のような症状がある場合やその他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆四国がんセンターの連絡先◆

【平日】　８：３０～１７：１５
四国がんセンター　がん相談支援センター
（直通番号）　０８９-９９９-１１１４

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
（代表番号）　０８９-９９９-１１１１

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】　１３：００～１７：００
四国がんセンター　予約センター
（直通番号）　０８９-９９９-１１１２



中心静脈カテーテルポート造設術を受けられる方へ